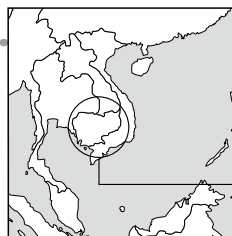


# ユニセフ 子ども物語

## 地球に生きる子どものくらし

Cambodia

### カンボジア



地図は参考のために掲載したもので、国境の法的地位について何らかの立場を示すものではありません。

## 出生登録は明るい未来への第一歩

半年前、プレイベン州に住むセスさんは、竹で作られた小さな家の中で途方に暮れていました。6歳になった娘のスレイさんの小学校への入学を断られてしまったのです。



「私は家が貧しく、学校に行ったことがあり

ません。読み書きができないため、これまですいぶん苦勞してきました。だから、せめて娘には学校に行って教育を受けてもらいたかったんです。それなのに、出生登録証のない子どもは、入学させられないと言われてしまったのです。」

入学を断られた理由は、スレイさんの『出生登録証』がなかったためです。セスさんは、そこで初めて小学校の入学に出生登録証が必要であることを知りました。セスさんは、出生登録証を見たことがなく、そのようなものがあることも知りませんでした。

地域のリーダーをした経験のある人に詳しく話を聞いたところ、出生登録証をもらうためには、子どもが生まれてから30日以内に申請しなければいけないこと、それ以上経ってから出生登録を行う場合、家族は罰金を支払わなければならないことを伝えられました。罰金は、一人で家族の生活を支えるセスさんにはとても負担の大きいものでした。

「あの時は、娘を学校に行かせることができず、私と同じように読み書きができない大人になってしまうのかと思って、とても心配しました。」とセスさんは言いました。

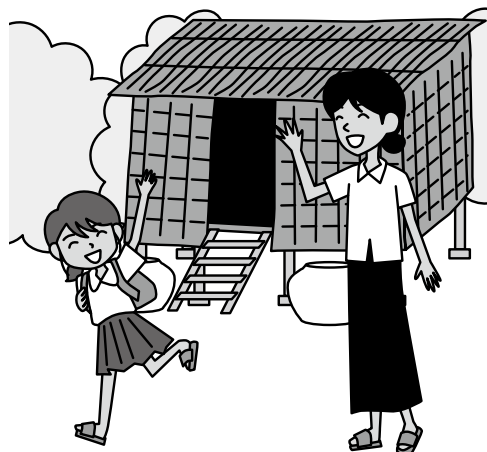
出生登録証は、子どもが出生登録されていることを証明する公的な書類で、教育や医療などの基本的なサービスを受けるため

に必要なものです。それにも関わらず、カンボジアで出生登録されている子どもは、いまも10人あたり6人ほどの割合に過ぎません。出生登録されていない子どもは都市部よりも農村部、豊かな家庭よりも貧しい家庭で多く見られます。家族が出生登録証について知らない、登録のための時間の余裕がないなどの理由で、多くの子どもが出生登録されていないのです。

セスさんはスレイさんの出生登録を行い、出生登録証を手に入れました。罰金は、出生登録に力を入れていたセスさんの住む地域が、代わりに支払ってくれました。そして、無事にスレイさんは小学校に入学することができたのです。



「娘は学校に通うようになってから、学校の先生になりたいと言うようになりました。いつか、立派な先生になった娘に、読み書きを習いたいですね。」セスさんは、元気に小学校に向かうスレイさんを見送りながら、嬉しそうに言いました。



## 物語の国 カンボジア

カンボジアはベトナム、タイ、ラオスと国境を接するインドシナ半島に位置する国です。12世紀にヒンドゥー教寺院として建立されたアンコールワットには、世界中から多くの観光客が訪れます。内戦が激化した1970年代後半には、当時のおよそ1割から3割ほどの国民が命を落としたりとされています。1993年に初めての民主的な選挙が行われてから、政治的・社会的にも安定した傾向にあります。現在は記録的な経済成長を遂げ、全体的な国民の生活水準は高くなりましたが、富める者とそうでない者の差や、都市部と農村部との格差は深刻化しています。



© 日本ユニセフ協会  
世界遺産のアンコールワット

# カンボジアの課題 ~取り残される地方やスラムの子どもたち~

カンボジアでは、2008年の基本法の制定以来、地方分権化が推し進められ、地方の担う役割が大きくなっています。教育や保健などに関わる事業も、地方政府によって査定され、優先順位づけが行われた上で実施されていますが、地方政府はインフラの建設を重視する傾向にあるため、女性と子どもに関わる問題への取り組みは課題への取り組みが遅れている状況です。ユニセフは、地方政府やコミュニティ（複数の村の集合体）の評議会と連携し、地方レベルで子どもの権利を守るための取り組みに力を注いでいます。

呼吸器系の病気の発生に悩まされています。また、この地域には出生登録されていない子どもたちが数多くいることも問題になっています。地域から数キロメートル離れた保健センターの職員が、毎月地域を訪問し、予防接種や保健の啓発活動などを実施しています。



© 日本ユニセフ協会  
大量のゴミが浮かぶ川の上に構えられた住居

### カンボジアの子ども

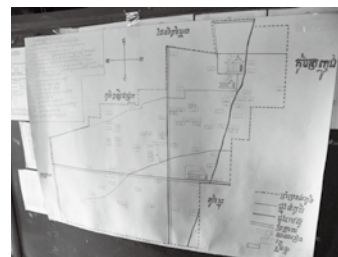
(より詳しい統計は『世界子供白書2014統計編』をご覧ください。)

項目	カンボジア	日本
18歳未満の子どもの数(2012年、1,000人)	5,557	20,310
5歳未満児死亡率(2012年、1,000人中)	40	3
妊産婦死亡率(2010年、出生10万人あたり)	250	5
改善された飲用水源を利用する人の割合(%) (全国、2011年)	67	100
改善された衛生施設を利用する人の割合(%) (全国、2011年)	33	100
若者(15-24歳)の識字率(男子)(%) (2008-2012年)	88	-
若者(15-24歳)の識字率(女子)(%) (2008-2012年)	86	-

出典:『世界子供白書2014統計編』

### マッピングで地域の問題を可視化

マッピングは、学校や診療所、井戸など、地域で利用可能な資源を地図上に描く地域参加型の取り組みです。カンボジアでは、特に地域の中で重要な社会サービスを必要とする家庭を識別する目的で行われています。どの家庭がどのような問題を抱えているかを把握するため、地図上の各家庭に、下記の社会的脆弱性を反映する17の項目に該当する番号を書き添えています。マッピングで可視化された課題は、地域の投資計画に反映され、社会サービスの提供の質の向上に役立てられています。



© 日本ユニセフ協会  
マッピングで作成された地域の地図

### 社会的脆弱性を反映する17の項目

1. 出生登録されていない新生児がいる家庭
2. 完全な予防接種を受けていない9歳~12歳の子どもがいる家庭
3. 保健センターや病院などの保健施設で出産をしたことのない母親がいる家庭
4. 幼稚園に通っていない3歳~4歳の子どもがいる家庭
5. 幼稚園に通っていない5歳の子どもがいる家庭
6. 小学校に通っていない6歳の子どもがいる家庭
7. 小学校に通っていない7歳~11歳の子どもがいる家庭
8. 中学校に通っていない12歳~14歳の子どもがいる家庭
9. 有害もしくは危険な労働をしている子どものいる家庭
10. 改善された水を利用できない家庭
11. トイレがない、もしくは改善されたトイレがない家庭
12. 孤児もしくは育児放棄された子どもがいる家庭
13. 女性が家長になっている家庭
14. 慢性的な病気を抱える家族のいる家庭
15. 精神的もしくは身体的な病気を抱える家族のいる家庭
16. 食糧確保の問題を抱える家庭
17. 貧困識別カードを付与されている家庭

### コミュニティ幼稚園

幼稚園での就学前教育は、子どもたちが社交性を身に付け、小学校での集団生活にいち早く慣れるために大変重要なものです。しかしながら、農村地域などでは子どもたちの家の近くに幼稚園がないなどの理由で、幼稚園に通うことができず就学前教育を受けることができない子どもたちが多くいます。そのような地域では、ユニセフやNGO、政府機関等の協力を得ながら、地域が主体的に運営するコミュニティ幼稚園が、子どもたちに就学前教育の機会を提供しています。

#### コミュニティ幼稚園の時間割(一例)

活動	時間
体操	20分
出欠確認	20分
ゲーム	20分
休憩	10分
基礎計算	25分
お絵かき	20分
一日の活動の振り返り	5分



© 日本ユニセフ協会  
歌に合わせて体を動かす園児たち

### 都市の厳しい環境で生活する家庭

過去20年で、首都プノンペンの人口は激増しました。都市部への人口の流入は、スラムと呼ばれる都市の中の貧しい地域の形成を促進しました。プノンペンの市街地から西におよそ20キロメートル離れたアンドン地域は、狭い範囲に貧しい家庭が軒を連ねる典型的なスラムの一つです。この地域は、あたり一面に散乱したゴミが悪臭を発生し、既存の下水処理システムは機能していないなど、衛生状態は悪く、住民の下痢、皮膚病、

### 指定募金のご案内

学校事業部では、ベトナム・モンゴル・カンボジアの3か国を対象に、国を指定して支援できる“指定募金事業”を行っています。詳しい支援内容は、下記ホームページから見ることができます。

子どもと先生の広場トップページ

<http://www.unicef.or.jp/kodomo/>

『協力したい! 参加したい!』 → 『ユニセフ募金について』